

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のもと「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく」という目標になっている。それに基づいて事業展開している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念に基づき、事業においても長期・中期・ユニット目標をたてて取り組んでいる。又、会議等を利用して理念について学び話し合う機会を設けている。	○	朝・夕のミーティングなどを利用し理念を職員に具体的に伝えたり、考えたりする場としても活用しているが、日々のOJTの中で伝えられるようにしていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレット・ホームページ・広報誌の活用・施設行事・推進会議を通し事業内容を伝えている。家族にも面会等を活用し伝えるようにしている。	○	近くの小学校との交流の時に、たてがみの郷が大切にしている事に触れるように取り組んだ。今後も続けて行けるように取り組む。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域に対しては、自治会長への挨拶・公民館を通して声をかけてもらっている。職員も自分達から近所の人に声を掛けるようにしている。買い物・散歩時・公民館活動・地域行事・近隣の商店への買い物・老健利用者・通所リハビリ利用の方々と日常的な交流を大切にしている。	○	法人の委員会活動(地域とともに委員会)を今後も継続していく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者本人にとっての地域を大切に、いつまでも地域の一員として過ごせるように地域行事には積極的に参加している。又、施設がある自治会への参加・小学校・保育所との交流をおこなっている。法人の委員会(地域とともに委員会)による地域との交流事業も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	法人の委員会(地域とともに委員会)で、地域の高齢者に対し趣味活動を企画し交流を行っている。	○	法人の委員会活動(地域とともに委員会)を今後も継続していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	毎年全職員で評価に取り組み、そこで気がついた事・改善ヶ所を確認している。すぐ取り組める事は出来るだけ早く、取り組みをしている。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	会議は定期的に行い、いろいろな意見をもらっている。そこで出た内容を職員に伝え、取り入れられることを検討している。又、実際に行事に参加して意見をもらい、活用している。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	日々の相談・ケースの相談・グループホーム部会活動(事業所部会)を通し、全体的にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	法人の委員会(満足のいく暮らし委員会)・研修への参加(権利擁護)を通し職員全体で勉強する機会を作っている。又、家族に対して情報提供も個人に合わせ行っている。	○	新任者研修で研修を行っている。法人の委員会(満足のいく暮らし委員会)の取り組みを通し、より活発に考えられるように啓発して行く。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	法人の委員会(満足のいく暮らし委員会)・企画会議・苦情解決委員会で学ぶ機会を設けている。日々の中で「おかしい」と思ったことは、お互いにいえるよう、又苦情に取り上げ防止に努めている。グループホーム部会(事業所部会)の研修会でも取り上げみんなで学ぶ機会を設けた。	○	新任者研修で研修を行っている。法人の委員会(満足のいく暮らし委員会)の取り組みを通し、より活発に考えられるように啓発して行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所・退所時に、本人・家族と話し合いをし同意をとっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内にご意見箱を設置し意見を聞き、法人の委員会(苦情解決委員会)で話し合い結果を職員会議で報告している。職員は、日々の関わりの中で聞いた意見・不満・苦情を本人に代わり意見を伝えるようにしている。又福祉相談員が時々入り、声を聞くようになっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員から、本人の暮らしぶり・健康状態・担当職員の交代を毎月の手紙で(写真を添えて)伝えている。(金銭についてもその時に伝えている。)	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内にご意見箱を設置し意見を聞き、法人の委員会(苦情解決委員会)で話し合うようにしている。苦情対応は、結果までを掲示している。行事の後で家族同士話し合う時間を設定し、今後の支援に活かすようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・主任会議・企画調整会議等で意見・提案を聞く機会を設けている。事業計画も全職員で作成し意見を反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	今年度より夜間2名体制として、夜間支援の充実を図った。又必要とあれば、本人の状態に合わせて勤務調整を行うようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動については極力少なくしている。又適任者を配置するようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人事評価制度・職務遂行表・職能基準書を中心に段階別に育成できるようになっている。外部研修に参加する機会も確保しているし内部研修については、法人の委員会(実力アップ委員会)を中心に計画的に取り組んでいる。日々の職員からの相談・ケース検討・カンファレンスを重要な育成の場と捉え、細かい指導を心掛けている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム部会(事業所部会)で勉強会を行う機会を(年4回)持っている。そこで情報交換も行っている。県内のグループホーム連絡会への参加も積極的に行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、日常的に職員に声をかけたり、職場に花を飾り環境作りに取り組んでいる。何かあった場合は、すぐに管理者に声をかけ対応させている。職員が自らの思いを言えるような雰囲気作りを行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回の人事評価を実施(個人面談も含む)し、個人が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。又、日頃より声をかけ向上心を持てるように動機付けしている。</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込み時・入居前の面接時に、話をしっかりと聞くようにしている。又、ケアマネジャーから日々の様子・思いを聞くようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込み時・入居前の面接時に、話をしっかりと聞くようにしている。又、ケアマネジャーから日々の様子・思いを聞くようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時に、本人にとって一番良いと考えられるサービスを考え、他のサービスも含めて対応をする場合もある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたって、家族から本人に話をしてもらうことは伝えている。グループホームの通所介護を利用し、その後入居という方もおられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る事や得意な事を把握して、日々の場面で職員が教わる機会をつくっているが、職員が介助しすぎている事もある。	○	身の回りの事は利用者自身が主体的に出来るよう、一人一人に合った支援をしていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時には、日々の状況を伝えている。又、毎月写真を添えて手紙も送り本人の状況を共有し家族と一緒に支える事を大切にしている。家族に行事参加の呼びかけを積極的に行い、一緒に楽しむ時間を持つようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は本人とその家族、両者の今までの状況・現在の意向を踏まえて支援している。本人それぞれの家族関係を踏まえ行事への参加を呼びかけたり通院の付き添いを頼んでいる。家族との繋がりもある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつまでも地域の一員として居られるよう、自宅や本人の地元で買い物や散髪に出かけている。又、屋号や地元の名前も会話の中に取り入れる工夫をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホールや別室で少人数が集う空間があり積極的に活用し少人数ですぐす事も出来ている。趣味活動・外出など、気の合う人と過ごす時間を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了時本人・家族に対し、何かあればいつでも声をかけてもらいたいことを伝えている。また希望があれば再度申し込んだり、通所の利用も聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートや利用時情報・ADL状況・個人記録などの書式を作っており、把握に努めている。私の暮らしシートや焦点アセスメントシートを使って、出来ること・出来ないことも把握している。また、個人記録では本人の様子や場面・職員の気づきを書く事で、本人の立場や目線で支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや利用時情報・ADL状況・個人記録などの書式を作っており、把握に努めている。また、本人の馴染んできた暮らしを知る為に自宅外出を行っている。その折には、本人の言葉や様子を見て、グループホームでの生活に取り入れている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝礼・ミーティング・ケア会議時など、個々に過ごし方や本人の出来る事・出来ない事を職員同志で話し合い、把握している。一日の過ごし方シートや焦点アセスメントシートを用いて、本人の意向を元に相談をしながら生活の組み立てをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス前に家族・本人の意見を聞いており、それに基づいた援助計画をたてている。また、栄養士やかかりつけ医からも意見を聞いている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとに担当職員が援助計画のモニタリングをしている。本人の状況や目標の達成具合をみて、援助計画の見直しもを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子・職員の働きかけ・結果・気づきを記録に残し、毎月担当職員が評価をしている。しかし、職員間で情報の共有が不十分である。	○	毎日夕方にミーティングを行っているので、その日一日、支援を実施して気づいた事や困ったことを話し合い、情報の共有を図る。重要なことは、赤で記入していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況でグループホームの通所・老人保健施設・デイケアも視野に入れるよう話を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて、警察・民生委員・小学校・公民館等に協力の依頼をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や状態に変化があれば、連絡を取り話し合うようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、地域包括センターの職員も参加してもらっているので、すぐに連絡が取れるようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からのかかりつけ医で継続して受診できるよう、本人・家族と入所時に決めている。又、2週間に一度往診に来てもらい、いつでも相談できる体制をとっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや接し方は、相手の立場に立って行っている。場合により小声で話したり等、他の方への配慮も心がけている。又、人権についての勉強会を行い話し合う事をした。個人記録の取り扱いが出来ていない。	○ 個人記録やファイル等は、使用したらすぐに片づけるようにし、本人以外の方の目に入らないようにする。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分で意思を表出する方は支援出来ている。一方、自分で意思が伝えられない方への支援が不十分。	○ 利用者一人一人に合ったコミュニケーションを行っていき本人の思いを知っていく。また、職員間でその思いを共有していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の主な日課は職員も把握しているので本人のペース・生活リズムに合わせて支援している。しかし、その日何をしたいかという事は聞けていない。	○ 日々の会話の中で、気持ちを知り記録にも残し、実施していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時・入浴時に衣類を選ぶ時は、本人の希望を聞いている。美容院も、昔からの馴染みの店に出掛けられるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備や調理・買い物など行っているが、本人自身の楽しみになるような働きかけが十分に出来ていない。	○ 利用者一人一人の好みや出来る事を知り、職員で共有を図ってから取り組んでいく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物の時や会話などから、本人の好みや望んでいることを拾い上げて、生活の中で楽しめるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一日を通して、排泄時間や素振りなど細かく観察して、排泄パターンを把握している。排泄係りがあるので、パッドや紙パンツ使用を軽減していく取り組みを実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を優先し、時間の調整を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ホールで横になって休む場所がないので、休息は各居室でとるようにしている。	○	人目を気にせず休める場所をホールでも作る。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や好きな事・得意な事を職員が共通認識するよう、話し合いをしております。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に合わせて管理方法を考えている。日常の中で実際にお金の支払いをする機会が少なく、働きかけが充分に出来ていない。	○	本人がお金を持つことの意味を職員で話し合っていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に合わせて外出できるよう職員間で連携をとり、時間の調整をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望があった時は、家族・本人・職員で計画を立てて外出のサポートをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をしたり、家族が電話をかけたりと、いつでも話が出来るようにしている。頂いた手紙などにも返事を出す様に支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由に出来るが、知人・友人との交流が途切れてしまっている。ホールに気軽に話が出来場所が確保出来ない。	○	ホールに客間の空間を作る。また、本人に馴染みの人や会いたい人が誰か日頃から聞いて知っていく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の委員会(満足のいく暮らし委員会)で研修を行い、勉強する機会を持つようになっている。スタッフ会議を利用してみんな身体拘束について考える機会を持っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日々のミーティングの中で鍵をかけることについて話し合い、考えるようにして支援に活かすようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安易に鍵をかけたり、付きっきりの支援に走らず、本人のプライバシーには配慮し、職員で連携をとり安全に配慮した支援をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品を取り除くのではなく、いつ・どういう状況で起こるのかを話し合い、必要な支援を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	注意が必要な点はケアプランに載せ、一人ひとりの状況にあわせた事故防止策に取り組んでいる。また事故がおきた場合は報告書に書き、再発防止に取り組んでいる。法人全体では、委員会(安全に暮らす委員会)で話し合い再発防止に取り組んでいる。	○	防止策を、朝・夕のミーティング・スタッフ会議で話し合い意識するようにしているが、同じ事が繰り返されることもある。そのような場合、家族も含めて話し合いを行い防止に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	本・急変時マニュアルを整備しいつでも見られる場所に置いてある。スタッフ会議を利用し、1年に1回はロールプレイを行っている。	○	朝・夕のミーティング・スタッフ会議を利用し急変時の対応を訓練していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策については、法人全体で取り組み実施している。	○	防災訓練・災害訓練への地域住民参加を委員会を通し考えていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時・プランの説明時等を利用し家族に対し日々の様子を踏まえリスクを伝え、理解してもらっている。その場で家族の気持ちを聞くようにして、支援に繋げている。状態が変化した時は、都度電話で話すようにしている。対策について本人・家族・職員で一緒に考える場も作っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、体温・血圧・脈を測定し、その日の体調を把握している。また、体調不良の方は随時測定を行っている。変化があれば日勤リーダーが他の職員から情報を集めて、医療機関・上司へ報告し、速やかな対応に結びつけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2週間に一度、薬剤師が来たときに、薬の目的や副作用を聞き確認している。薬の管理方法は自己管理や職員が配薬する人というが、本人の能力を理解して支援している。一人一人の服用中の薬について情報をまとめて職員がいつでも見られるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤に頼るのではなく、日頃の食事(繊維の多い物・果物・オリゴ糖・寒天)や適度な運動(散歩・リハビリ体操)を行なっていき、個々の体に合う物を見つけている。意識はしているが、便秘予防・対策についての認識が不十分なので、一人一人に合った対策が出来ていない。	○	一人一人に合った便秘解消法を見つけていく。便秘について勉強をする。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立者・介助の必要な方に対しても、毎週2回(月曜・木曜)はポリデントを実施している。本人の出来る部分は声かけのみ行い出来る所までして頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員も一緒に食事をしながら、一人一人の食べる量や水分摂取量を把握している。チェック表を作成し、一目で量が把握出来るようにもしている。栄養バランスは、食事係りを中心に栄養士からアドバイスをもらい参考にしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人の委員会(健康を守る委員会)でマニュアルを整備していつでも見られる場所に置いている。委員会からの呼びかけを行い予防・対応についての取り組み行っている。実際に感染症が発生した場合、すぐに対策会議を開き、蔓延防止に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い物はほぼ毎日出かけているので、新鮮な物・国産の食品を選ぶようにしている。食器類は定期的に消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	本人の作った作品を掲示したり、プランターに花を植えたり、椅子を置いて人が集いやすい雰囲気作りをしている。利用者も玄関先に出むくようになった。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる為の取り組みは出来ているが、テレビや音楽への配慮は出来ていない。(見たい人・聞きたい人には良いが、その他の方への配慮は不十分)	○	一人一人の意向を知り、その都度環境を見直していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長いすを置いたり、テーブルの配置を工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物(ダンス・ベット・布団・鏡台)を家族にも協力して頂きながらグループホームへ持って来てもらい、自宅と変わりにくく継続して使えるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除をする時や訪室した時には、換気や室内の温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の歩行状態に合わせ、ホールや居室の家具の配置を替えて自立した生活が送られるように工夫している。必要な場合は、家族と相談しながら部屋に手すりをつけるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	照明やさえぎる物(カーテンなど)をなくして、場所が認識出来るよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや中庭で花や野菜を育てたり洗濯物を干すなど活用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・たてがみユニットでは、本人の意向を常に大切にしています。
- ・“笑顔は心のサイン”を合言葉に、一人一人と関わる時間を大切にしています。
- ・個別援助、行事でも利用者が中心（主役）になれるよう支援しています。